

初日のミニグループディスカッションは PCI 中のトラブルに対する対処法についてであった。

当グループでは以下の PCI 症例について議論した。

「以前 LAD に留置した B2 stent に再狭窄あり Cypher 留置(stent in stent)を予定したが、B2 stent の strut から還流される大きな第一中隔枝の入口部に 90%狭窄病変があった。Cypher 留置前にまずそちらを小径バルーンで拡張したが、そのバルーンが rupture し strut に引っ掛かってしまい抜去困難になった。力をかけて引っ張っているうちにバルーンカテのシャフトがガイドカテ内で折れてしまった。さて、どうする？」

まず議論になったのが、そもそも中隔枝を拡張する必要があったのかということであった。私自身であれば拡張の必要性は感じなかったが、チューターはこの PCI の数日前に同様の大きさの中隔枝を stent で jail し、AV block shock となる症例を経験され、このケースでも同様の状況に陥らないために中隔枝の前拡張をする判断をしたとのことであった。ついで device が抜去困難になった際の対処方を話し合った。今回抜去困難になったのはバルーンカテであるが、グループには経験豊富なドクターも数人おり色々な対処法の案が示された(スネアで回収、ワイヤーを追加挿入し絡めとるなど)。結局チューターはガイドカテの出口でバルーンを拡張させ、バルーンとガイドカテにシャフトを挟み込みガイドカテごと力づくで引き抜いた、ということであった。さらにチューターはシャフトの構造にも言及され、チューターの対処法が理論的にも有効であったことなどを教示してくれた。最後にバルーンを抜去する際には、出し入れしながら慎重に抜去すべきだとの基本的であるが非常に大切な事項の確認をし終了となった。